

ミステリ読書案内

2021. 11. 18 発行元

第296号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

S=A・ステーマンの代表作

海外のミステリを取り上げる企画はかなり苦しくなってきた。何しろ最近では日本ミステリに絞って読んでいるので、海外作品の実情はわからなくなっている。今回はS=A・ステーマンの作品を取り上げることにした。

ベルギー生まれのフランス作家

S=A・ステーマンについては、この『ミステリ読書案内』第15号の「海外ミステリこの一冊」でわざわざ取り上げたが、再度ここに書いてみようと考えた。ステーマンはベルギーの生まれで青年期までベルギーで過ごしている。フランスのミステリ賞を受賞したのでフランス作家に分類されることが多いが、正しくはベルギー作家。

謎解き・本格ものミステリの考え方で、1930年代から本格的に取り組み始め、40冊くらいの作品が残されているようである。1930

年代と言えば、イギリス、アメリカのミステリ界は「本格もの黄金期」に当たり、ステーマン自身もその動きに注目していたようである。下の作品紹介でも触れるが、エラリー・クイーン作品などは出版と同時に読んでいたことが窺える。

日本人好みの内容であるにも関わらず、日本語訳になった本は少なく、私は今回取り上げた3作の他に『マネキン人形殺害事件』を読んだだけである。日本語訳になった本も再刊されることは少なく、手に入りにくい状態になりつつあるようだ。古典に近い本なので、是非若い人にも読んでもらえたらと思う。

No. 3 「六死人」

私が持っている本は創元推理文庫で1984年の初版。原著は1931年。この作品が有名なのは、クリスティの『そして誰もいなくなった』よりも8年も前に書かれた、仲間が次々亡くなっていく形式のミステリだから。五年前に六人の若者が約束をした。「五年経ったら再開して、稼いだ金をみんなで山分けしよう」というもの。そして六人は世界各地に散らばった。成功した者もあれば有り金全部を失った者もいる。五年が過ぎて皆が帰途に就くことに。一人が船から落ちて行方不明に。そして、一人、また一人と次々と殺されていく。解決に向けて捜査に立ち上がるのはヴェンス警部。さて「誰もいなくなった」後に待ち受けるどんでん返しはの結末は…。

No. 1 「三人の中の一人」

原著は1932年の発刊である。私が持っている本は1977年の番町書房 if ノベルス。松村喜雄訳。ネットで調べてみると古書市場で2万円という高値がついていた。この価格が現在の妥当な評価をあらわしているかどうか分からないが、手に入りやすい本なのは間違いない。発行部数も少なかったろうし…。if ノベルス自体が珍しい存在で、現在はまったく見かけない。

1930年代のフランスの片田舎にある古城が舞台。城主はいかさま興行で巨額の富を手にしたユーゴー・スリム。彼は、若い妻とその姪と友人のネッペル医師と世間の目から逃れるようにして暮らしていた。ある雷雨の夜に、城館の一階の一室でネッペル医師が殺された。凶器はピストルで、弾丸は額の真ん中を射貫いていた。スリムもネッペルも共に暗い過去を持っていたので、城主は一層おびえて生活するようになった。そして、第二の殺人事件が起こり…。予審判事が中心になって懸命の捜査が展開されるが、犯人を突き止めることは難しかった。そこに登場するのが謎の人物サン・ファール。城主の友人ということだが、全身黒づくめの「黒衣の男」。この人物が物語の中で果たす役割は何か。最終的に犯人にたどりつくことができるのか。

本書も謎解きの面白さを追求した本格派探偵小説のひとつとして書かれた作品。ステーマンの代表作。

No. 2 「殺人者は21番地に住む」

原著は1939年の発刊。私が持っている本は1983年の創元推理文庫初版。舞台をわざわざロンドンにしている。「切り裂きジャック」事件を意識して書いているので、霧に煙ったロンドンでの連続殺人事件が展開していく。捜査はもちろんスコットランドヤードの面々である。本作が注目されるのは、後半に2回に渡り「まだ犯人がわからない読者へ」＝「読者への挑戦」が入っていること。ステーマンはここでクイーンとオースチンの名前を挙げ「このアイデアをわたしも利用して、読者へ次のように言うのも楽しいことのように思えた」と書いている。「読者はいまずべての手掛かりを手にしています。あなたは名探偵？ すべてはあなたの知能次第ですよ！」と書かれれば、誰も「よし、考えてみよう」と思うもの。容疑者はラッセル広場21番地のヴィクトリア荘に逃げ込んだらしい。怪しい人物は7人。「読者への挑戦」に前後する場面で、ヴァン・ダインを意識したらしいブリッジによる犯人心理の分析が登場してくる。結末は…納得できる…？ 納得できない…？ う～ん、議論のあるところのようだ。